

平成28年度 奈良県中学校教育課程研究集会 社会部会

平成28年 7 月29日 県立教育研究所
奈良県教育委員会事務局 学校教育課
指導主事 谷 聡

本日の説明内容

1. 奈良県学力・学習状況調査の結果
2. 実践報告 橿原市立橿原中学校 松林和美 教諭
3. 中学校社会科における学習指導要領改訂の方向性
 - (1) 何を学ぶか
 - (2) 何ができるようになるか
 - (3) どのように学ぶか
4. まとめ
 - (1) 評価について
 - (2) 各学校にお願いしたいこと

1. 奈良県学力・学習状況調査の結果

平成28年4月19日(火)実施

- 学力調査
- 生徒質問紙調査
- 教員質問紙調査

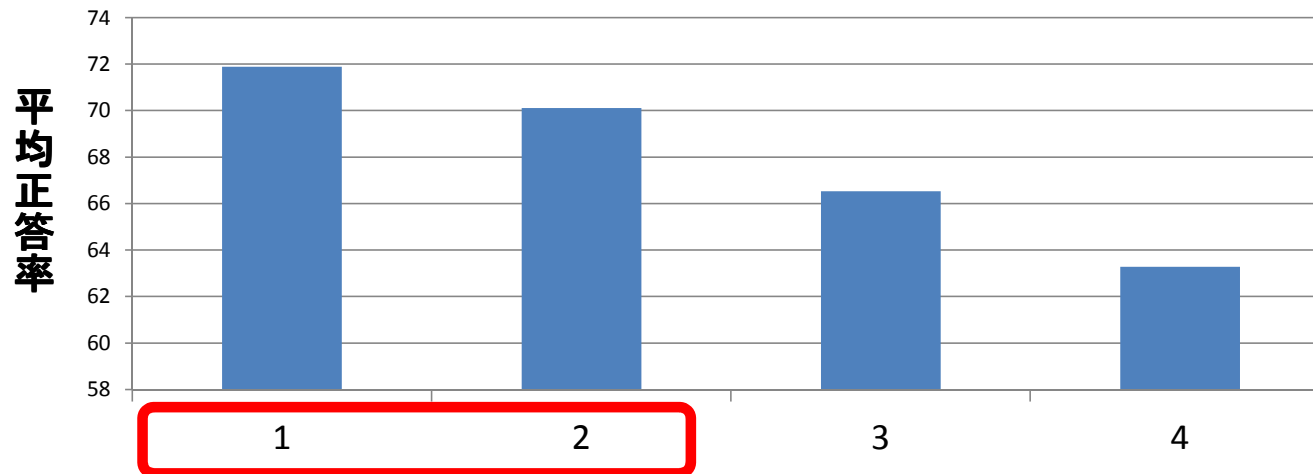
奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉

下のグラフにおいて、「家で復習をしている」と答えた生徒ほど平均正答率が高く、「復習をしていない」と答えた生徒ほど平均正答率が低い。

質問に対する回答結果と平均正答率との間に、このような関係が見られるものを紹介する。

家で、学校の授業の復習をしていますか



国語と数学の相加平均

- 1 している
- 2 どちらかといえばしている
- 3 どちらかといえばしていない
- 4 していない

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉①

○家庭学習状況

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・家で、学校の授業の復習をしている。
- ・疑問に思ったことは自分で調べてみようと思う。

○自尊感情

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・自分は、先生から認められていると思う。
- ・自分には、よいところがあると思う。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉②

○規範意識

- 学校の規則を守っている。
- 友達との約束を守っている。
- 学校では、先生に挨拶をしている。

○地域との関わり

- 自分の住んでいる地域のことを好き。
- 自分の住んでいる地域のことを学ぶ機会がある。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉③

○社会に対する興味・関心

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。
- ・家庭で、地域や社会で起こっている問題や出来事を話題にしている。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉④

○授業において

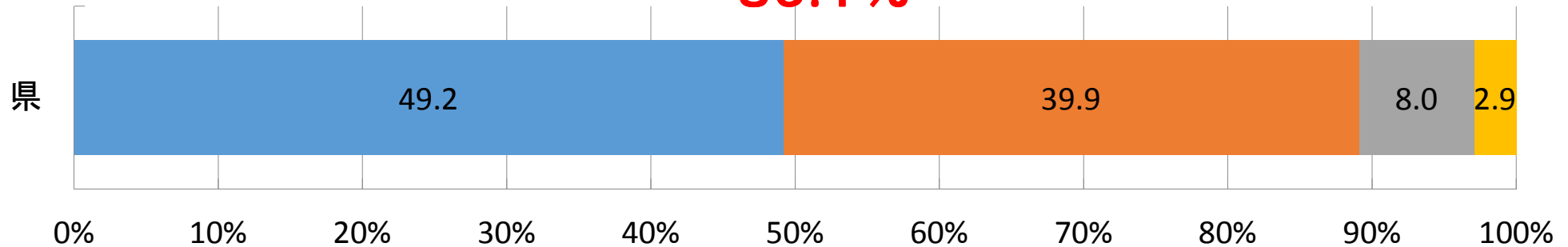
- 小学校では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- 小学校では、授業のはじめに目標（めあて、ねらい）が示されていたと思う。
- 小学校では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

○ 地域との関わり

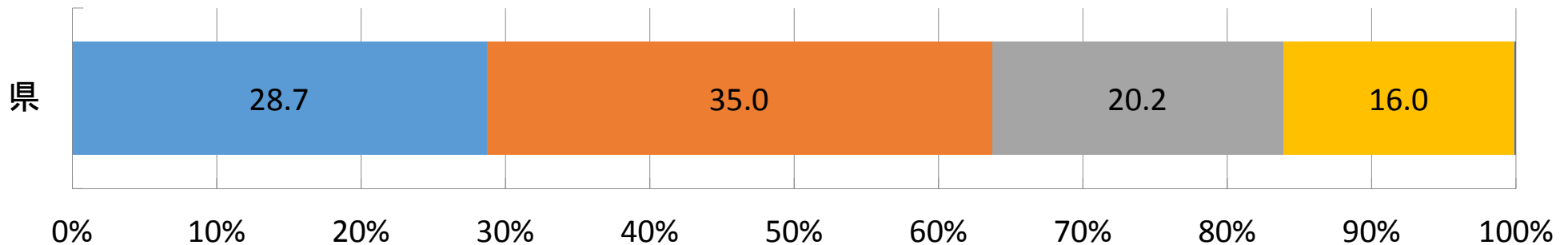
・自分の住んでいる地域のことは、好きですか。

89.1%



・自分の住んでいる地域の行事に参加していますか。

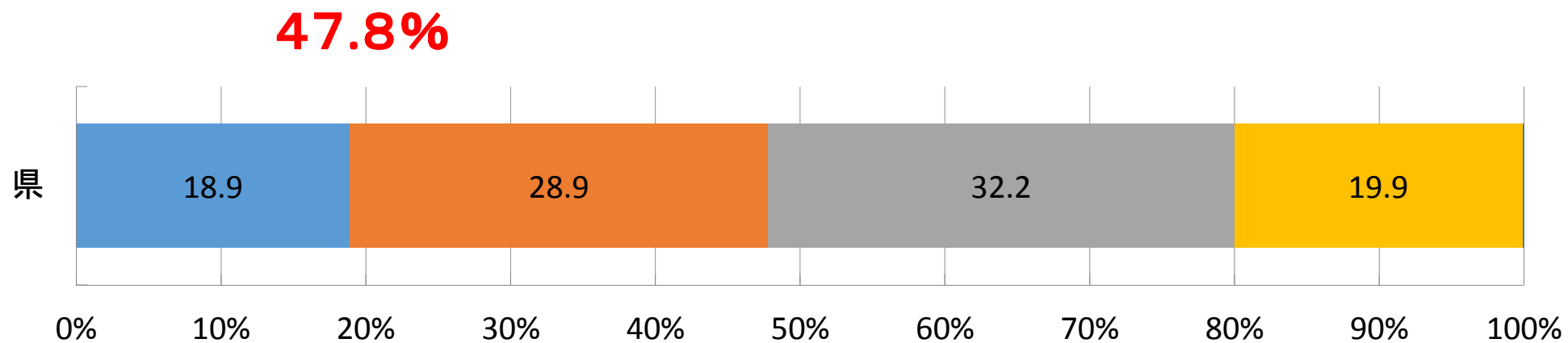
63.7%



奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

○ 地域との関わり

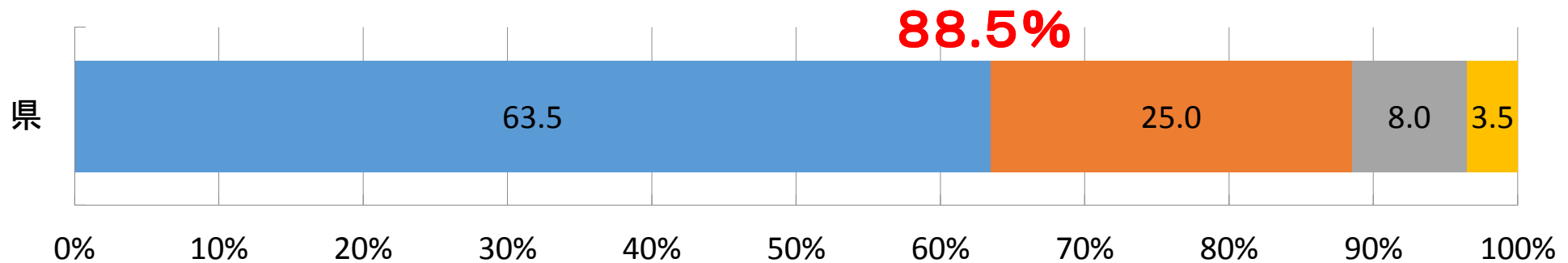
・自分の住んでいる地域のことを学ぶ機会がありますか。



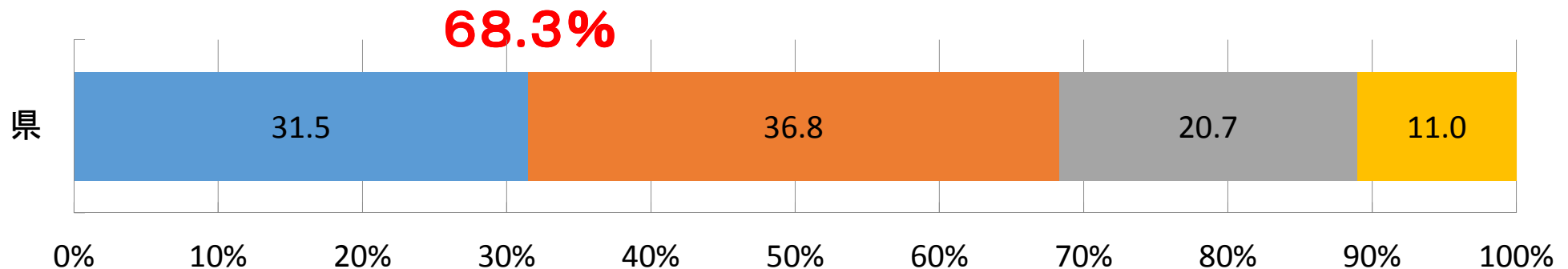
奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

○ 社会に対する興味・関心

- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。
(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む。)



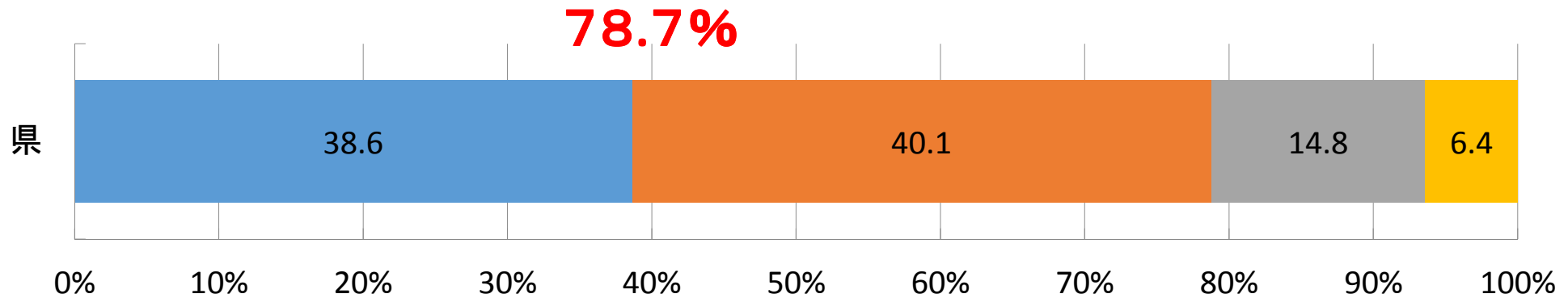
- ・ 家庭で、地域や社会で起こっている問題や出来事を話題にしていますか。



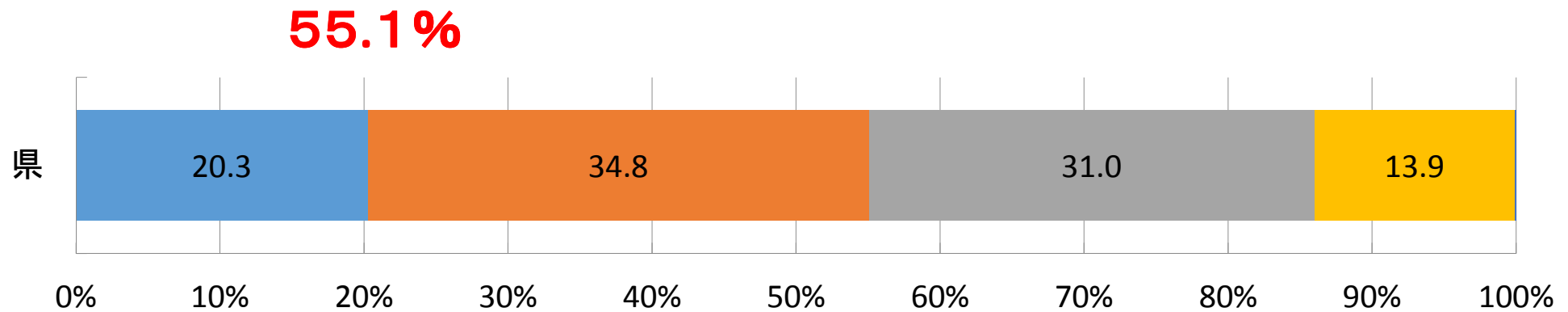
奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

○ 社会に対する興味・関心

・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

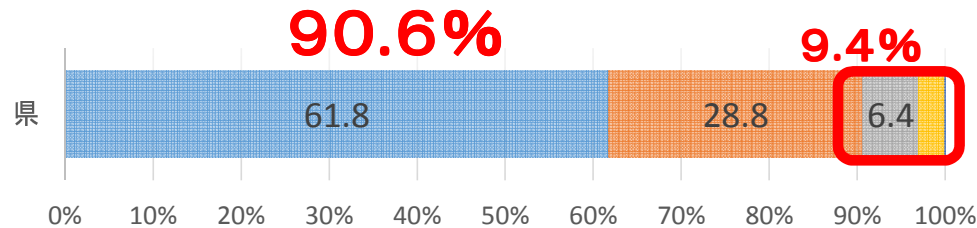


・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。

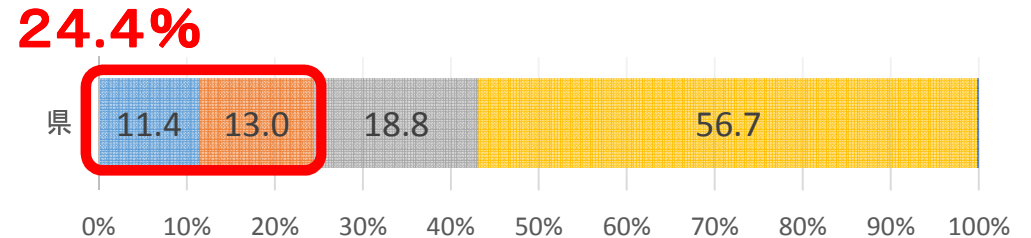


奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

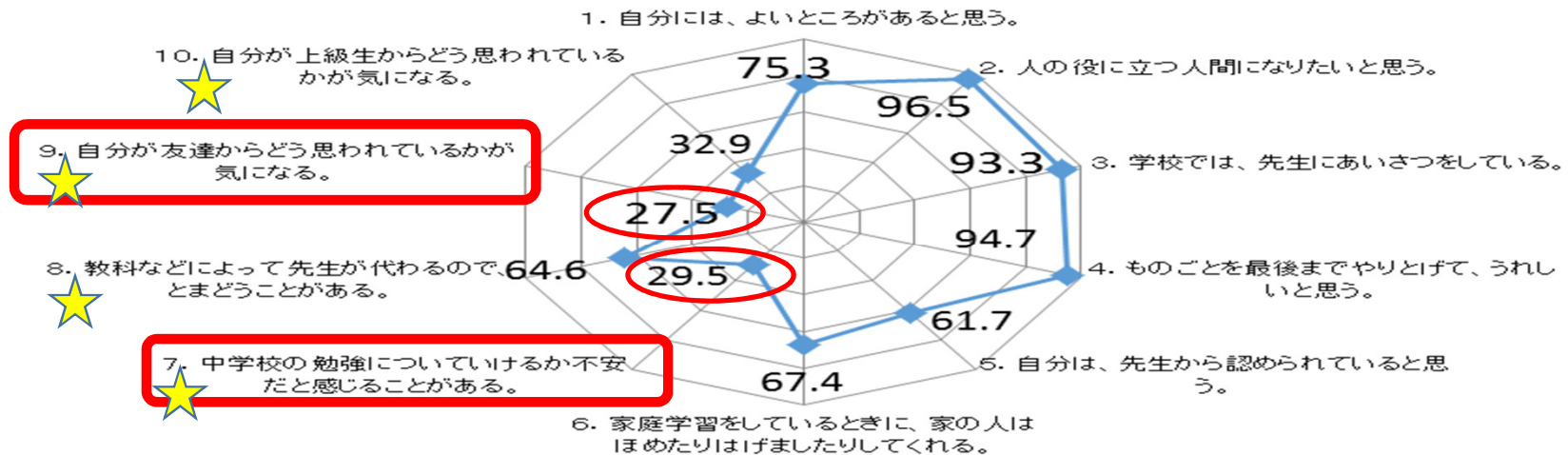
○ 学校に行くのは楽しいですか。



○ 学校に行けない、または、行きたくないと思うことがありますか。



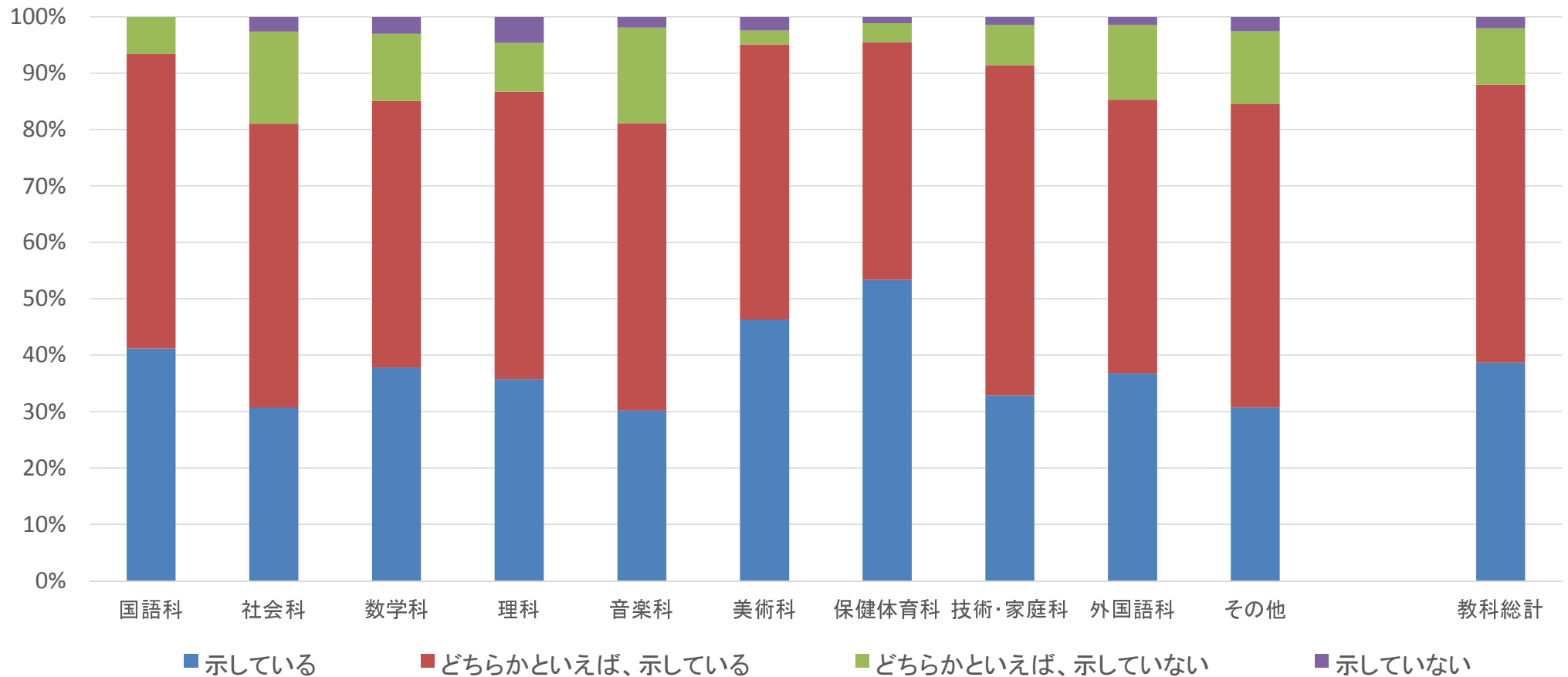
生徒質問紙調査(県平均)



※設問1～10のうち、
1～6は、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した生徒の割合の合計
7～10は、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と回答した生徒の割合の合計を表す。

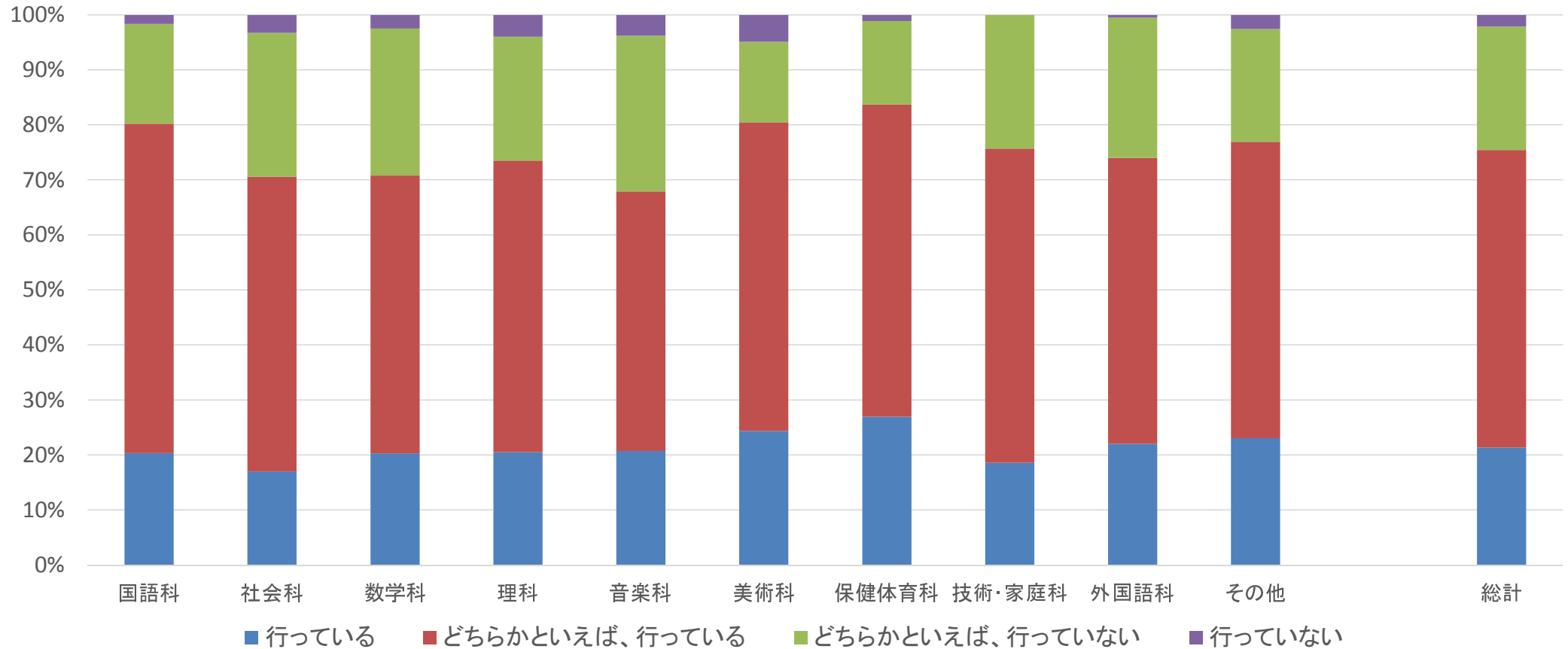
奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

授業のはじめに目標を示していますか



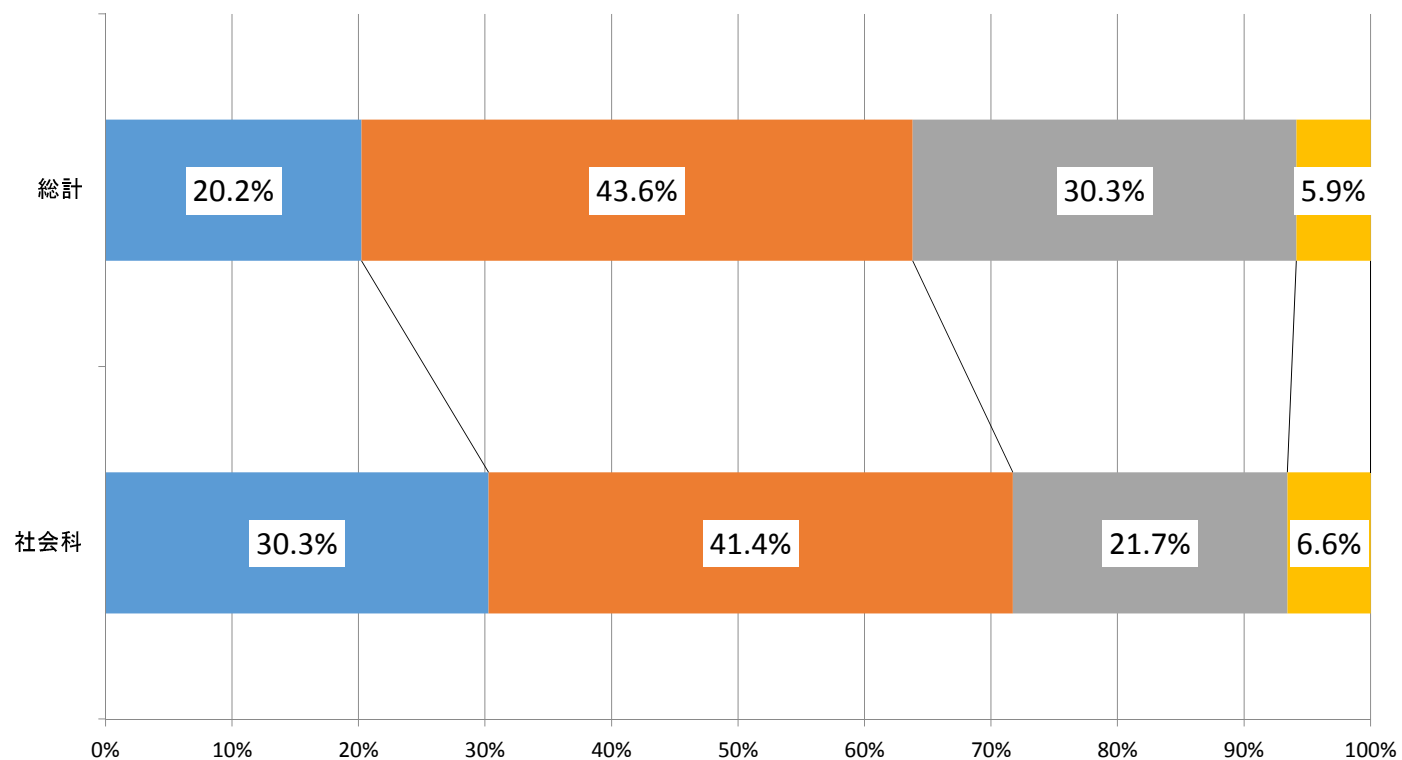
奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていますか



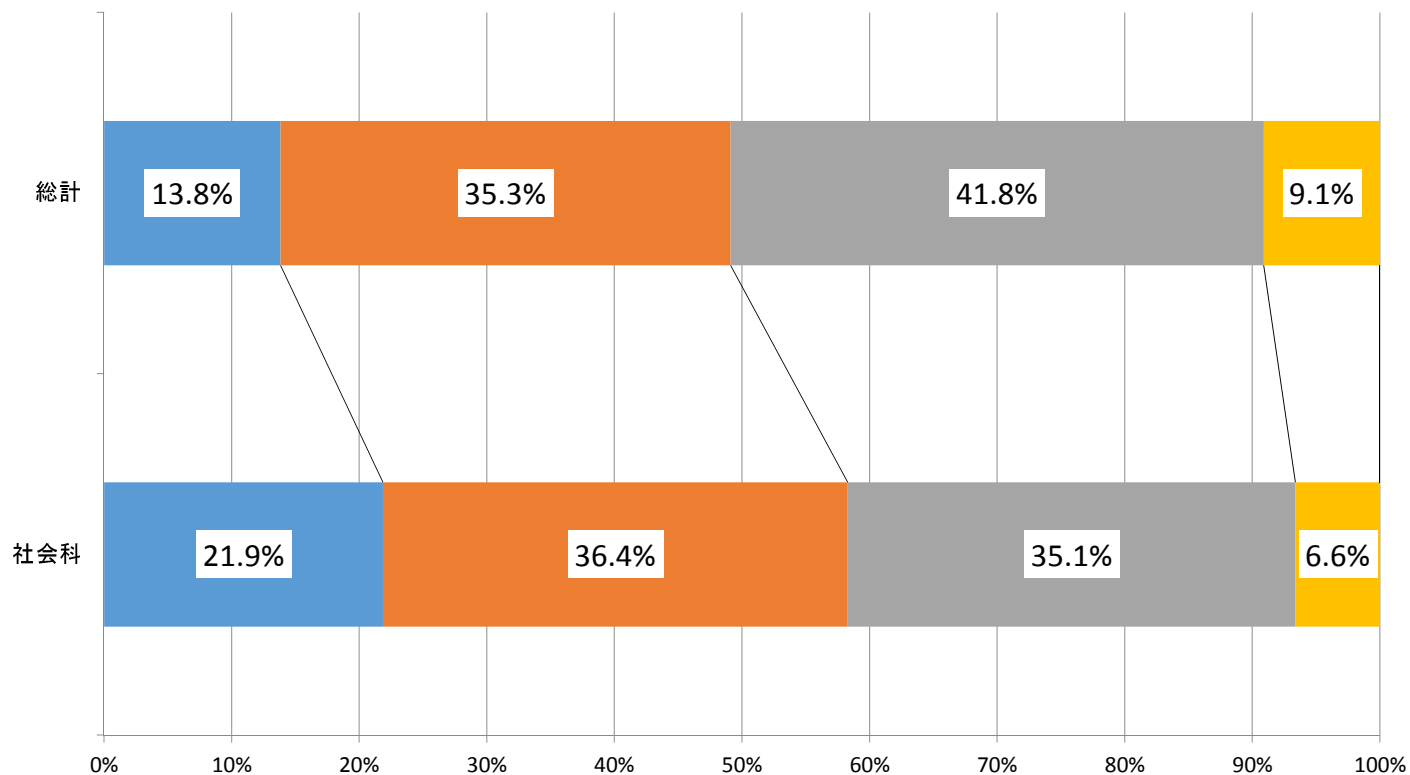
奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

・勤務している学校の地域のことについて、生徒に知らせたり、教えたりしていますか。



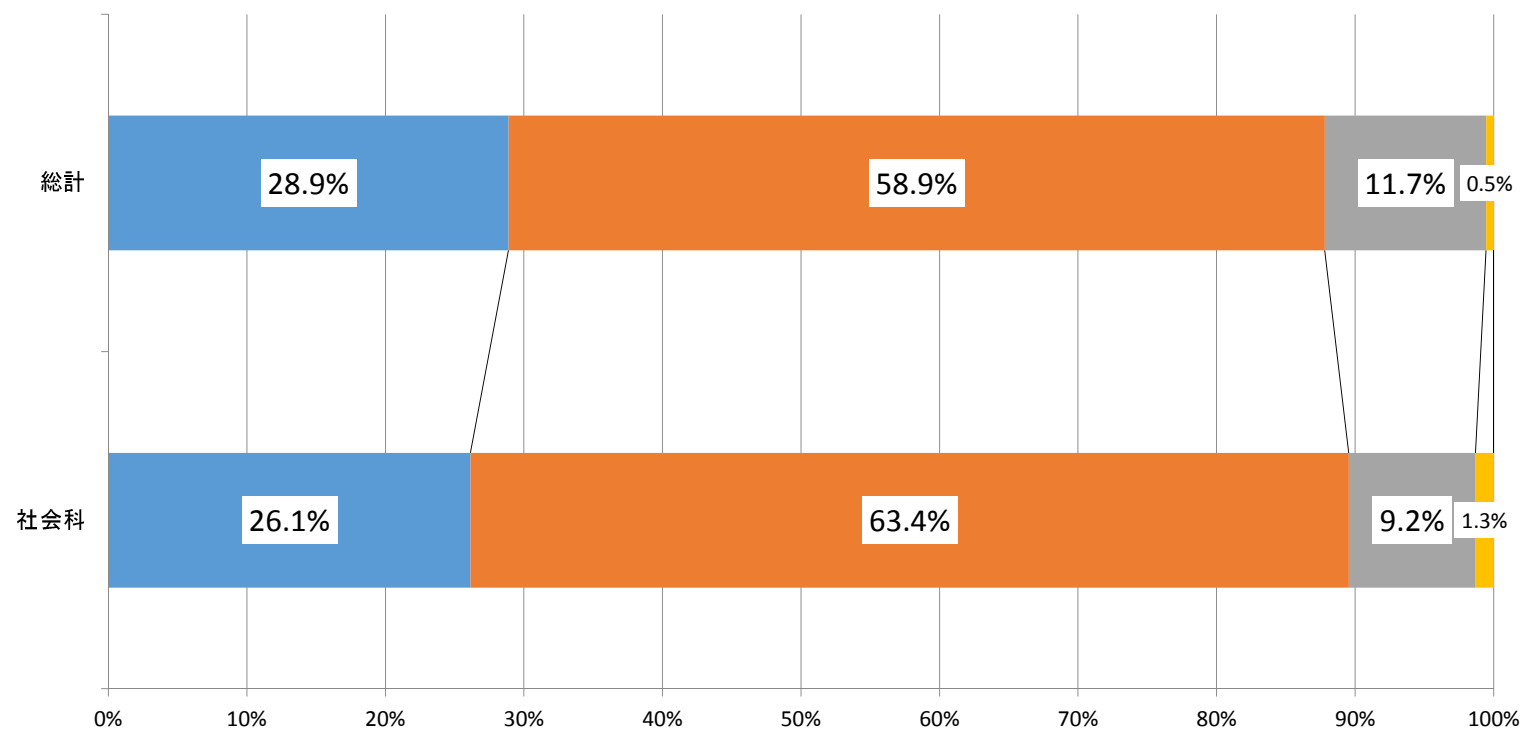
奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

・郷土の自然や文化、人々との触れ合いを生かした指導をしていますか。



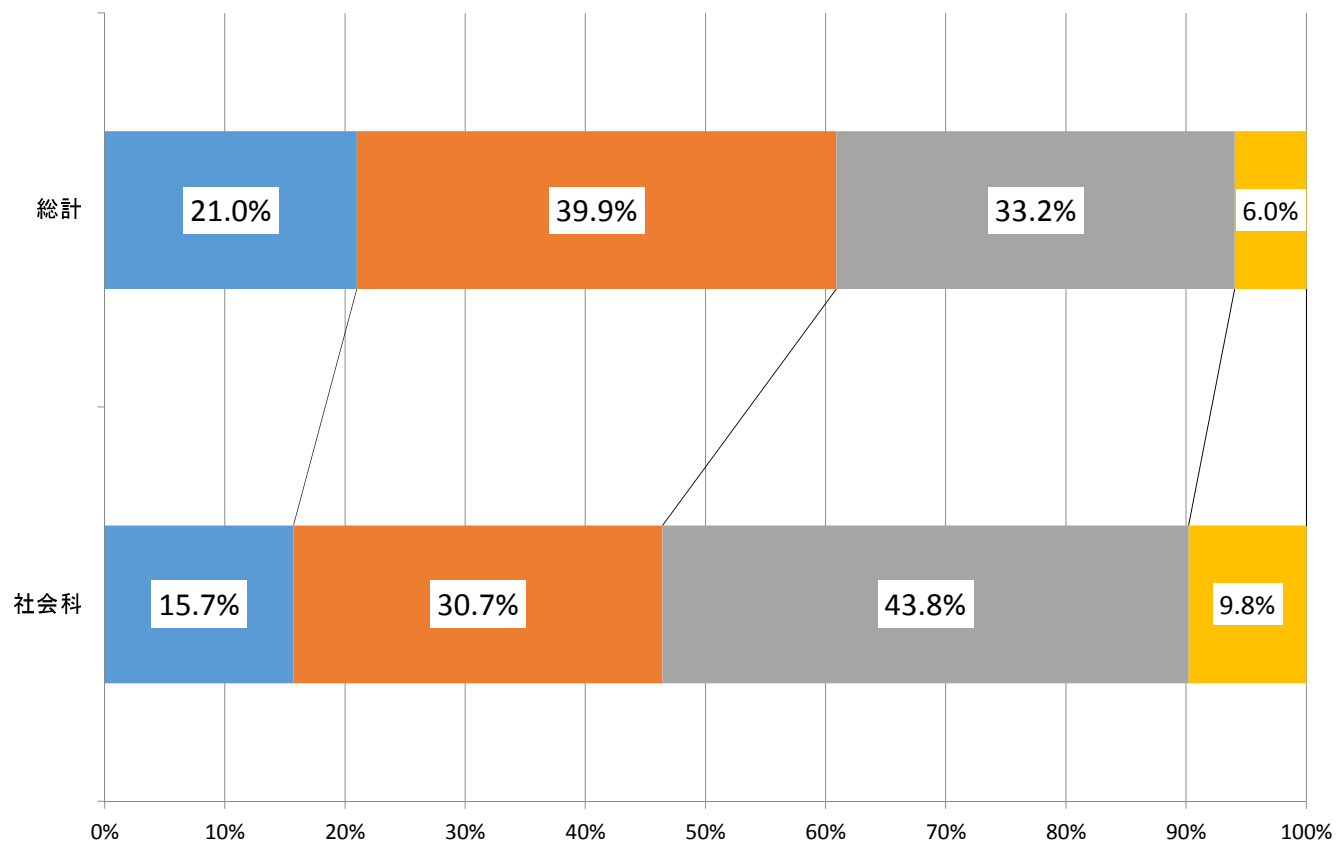
奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

・生徒の主体的な学びを引き出すことを意識して指導していますか。



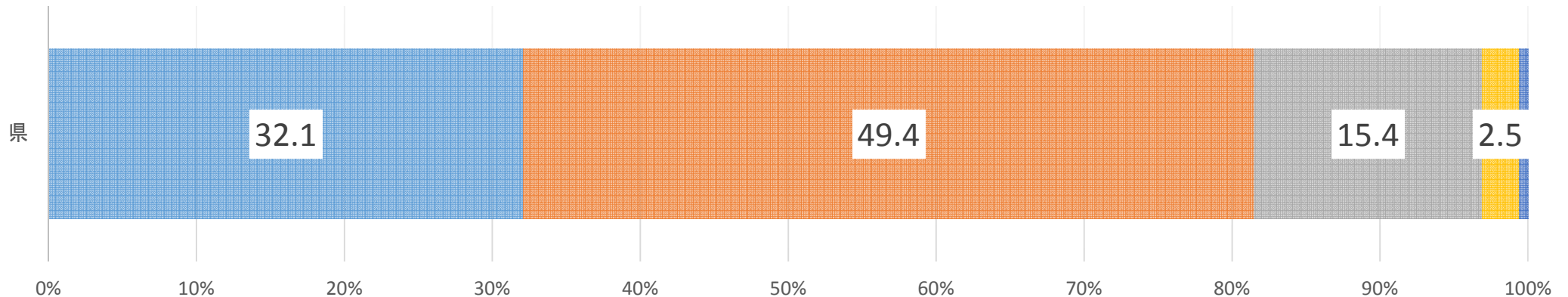
奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

・授業では、学級全体やグループで話し合う活動を行っていますか。



奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

- 学校全体の学力傾向や課題について、他の職員と共有していますか。



奈良県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査



自校の生徒の実態を共有

教職員の一致した指導

2. 実践報告 榎原市立榎原中学校 松林和美 教諭

3. 中学校社会科における学習指導要領改訂の方向性

学習指導要領改訂のポイント(「教育の強靱化に向けて」平成28年5月10日)

急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるために必要な知識や力を育むため、以下のような方向性で学校の教育課程を充実。

- 「ゆとり教育」か「詰め込み教育」かといった、**二項対立的な議論には戻らない**。
知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、**学習内容の削減を行うことはしない**。

高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

- 学校教育のよさをさらに進化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。

「**アクティブ・ラーニング**」の視点は、**知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くこと**を目指すもの。知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための**学習過程の質的改善**を行う。

①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠。

- こうした方向性のもと、必要な教科・科目構成等の見直しも行う(小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共(仮称)」等の新設など)。

**本年度中に学習指導要領を改訂し、
2020年から順次実施。**

高等学校は来年度改訂

学習指導要領改訂の方向性（案）

平成28年5月23日
教育課程部会
総則・評価特別部会
資料3-1

新しい時代に必要な資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



現行学習指導要領における社会科の課題

- 主体的に社会の形成に参画しようとする態度等の育成
- 資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり、関連付けたりして考察し、表現すること
- 社会的事象を多面的・多角的に考察したり、事象相互の関連性を表現したりすること

以上のことについては、更なる充実が必要である。

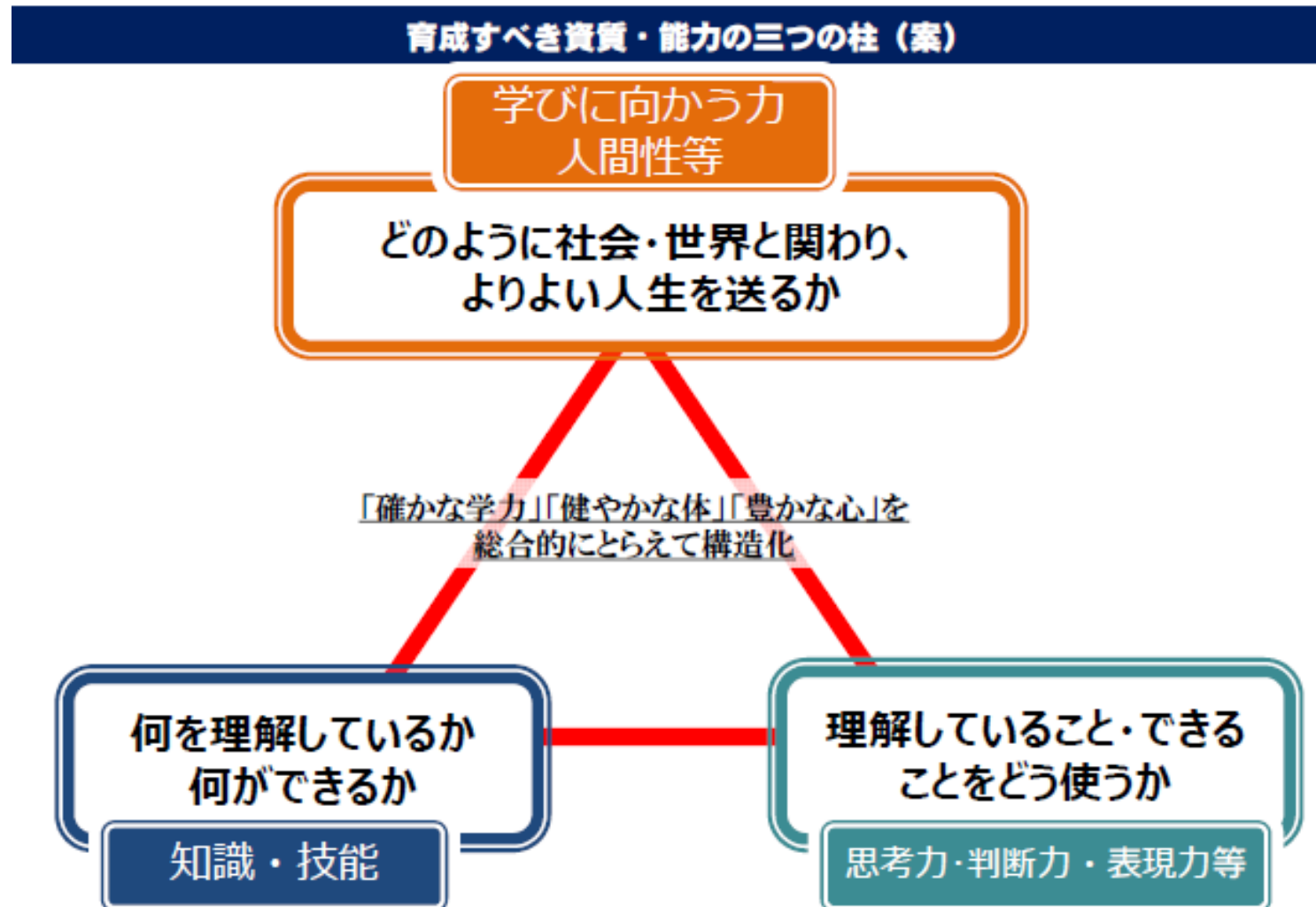
(1) 何を学ぶか

次期学習指導要領における中学校社会科の目標

- 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり養う。

- ① 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- ③ 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

(2) 何ができるようになるか

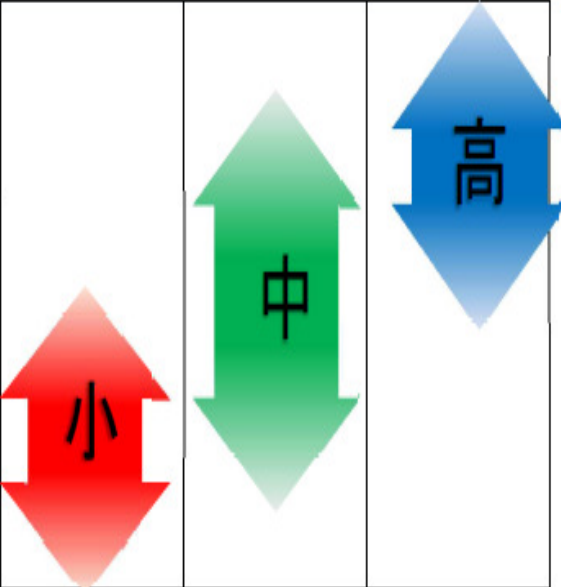


知識・技能

- 「知識」＝社会的事象等に関する知識
 - ①個別の事実等に関わる知識（用語・語句）
 - ②汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識
（社会的事象の特色や意味、理論）
- 「技能」＝社会的事象等について調べまとめる技能
これまでは、「資料活用の技能」であったが、観察や資料活用を通して「社会的事象に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能」として捉え、整理する。

思考力・判断力・表現力等

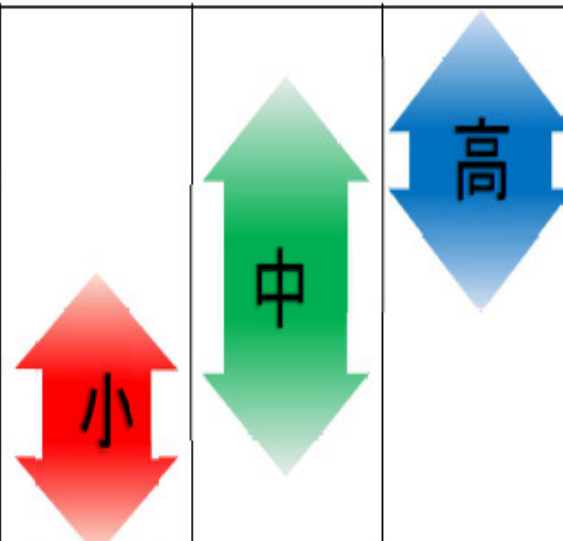
① 社会的な見方や考え方をを用いて、社会の在り方や社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力

・社会の在り方や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる		
・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる		
・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察できる		



思考力(論理的思考力、批判的思考力)




② 社会的な見方や考え方をを用いて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力

・社会に見られる複雑な課題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる		
・社会に見られる課題を把握して、複数の立場や意見を踏まえて、解決について選択・判断できる		
・社会に見られる課題を把握して、解決に向けて自分たちにできることを選択・判断できる		



判断力

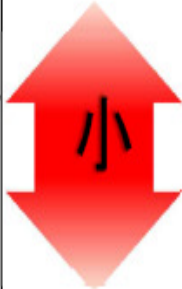


③ 考察したこと，構想したことを説明する力

・適切な資料・内容や表現方法を選び，社会的事象についての自分の考えを効果的に説明できる			
・主旨が明確になるように内容構成を考え，社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			
・根拠や理由を明確にして，社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			



表現力

④ 考察したこと，構想したことを基に議論する力

・合意形成を視野に入れながら，社会的事象について構想したことを，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論できる			
・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして，社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる			
・他者の意見につなげたり，立場や根拠を明確にしたりして，社会的事象についての自分の考えを主張できる			



表現力

学びに向かう力・人間性等

○「主体的に学習に取り組む態度」

○「多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など」

社会的な見方・考え方

- 社会的な見方・考え方は、資質・能力全体に関わるもの
 - ・ 深い学びを実現するための思考力や判断力の育成
 - ・ 知識の構造化
 - ・ 主体的に学習に取り組む態度
- 課題解決的な学習において、考察や構想（選択・判断）したりする際の「視点や方法」のこと
- 小、中、高等学校と校種が上がるにつれて視点の質や問いの質が高まることで成長する。

地理的な見方・考え方

- 位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し、

視点



- 環境条件や他地域との結びつきなどを他地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて

方法



地理的な見方・考え方

- 社会事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する

考察

- 地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する

構想

地理的な見方・考え方

考えられる追究の視点例

地理的分野

- 位置や分布に関わる視点
絶対的, 相対的
規則性・傾向性, 地域差 など
- 場所に関わる視点
自然的, 社会的 など
- 人間と自然の相互依存関係に関わる視点
環境依存性, 伝統的, 改変, 保全 など
- 空間的相互依存作用に関わる視点
関係性, 相互性 など
- 地域に関わる視点
一般的共通性, 地方的特殊性 など

社会，地理歴史，公民における思考力，判断力

◎社会的事象等の地理的な見方や考え方

- ・位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
- ・環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて

追究の方法

考察

社会的事象の特色や相互の関連，意味を多面的・多角的に考察する力

構想

地域に見られる課題の解決に向けて，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例

- ・それは、どこに位置するだろう
 - ・それは、どのように分布しているだろう
 - ・そこは、どのような場所だろう
 - ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう
 - ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろう
 - ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう
 - ・その地域は、どのような特徴があるだろう
-
- ・それは、(どこにある, どのように広げる, どのような場所とする, どのような自然の恩恵を求める, どのように自然に働き掛ける, 他の場所とどのような関係を持つ, どのような地域となる) べきなのだろう

考察, 構想した結果, 獲得する知識の例

- ・地球上の地点は, 絶対的, 相対的に表現できること
(具体例; 明石市は大阪市の西にあり, その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分, 東経135度0分にある)
 - ・特定の事象は, 地球の表面において特定の範囲に広がること
(具体例; アマゾン川流域の一年中雨が多く降る地域には, 常緑の密林地帯が広がっている)
 - ・地球上の各地は, 固有の性格があること
(具体例; 広島市の沿岸部は, 低平な三角州となっている)
 - ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに, それを変化させること
(具体例; 平野の乏しい日本では, その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきた)
 - ・場所は相互に関係を持ち, 影響を及ぼし合うこと
(具体例; 多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では, 新鮮な農産物を生産し, 都市の住民に届ける近郊農業がさかんである)
 - ・空間的な広がり, まとまりのある固有の特徴を持つこと
(具体例; 中国地方の山間部では, 人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっている)
-
- ・地域には, 地域的特色を踏まえた, よりよい姿が求められること
(具体例; 地震や豪雨, 台風など自然災害を受けることの多い日本では, 被害を最小限に食い止めるため, 各地の自然環境に応じた, 災害に強いまちづくりを進めることが大切である)

歴史的な見方・考え方

考えられる追究の視点例

歴史的 分野

- 年代の基本に関わる視点
時期, 年代, 時代区分 など
- 諸事象の推移や変化に関わる視点
変化, 発展, 時代の転換 など
- 諸事象の特色に関わる視点
相違, 共通性, 時代の特色 など
- 事象相互の関連に関わる視点
背景, 原因, 結果, 影響 など

社会，地理歴史，公民における思考力，判断力

◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方

- ・時期，推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
- ・比較して相違や共通性などを明確にして
- ・諸事象とその背景などの関連性に留意して

追究の方法

考察

時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力

構想

歴史に見られる諸課題について，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例

- ・いつ(どこで, 誰によって)おこったか
- ・前の時代とどのように変わったか
- ・どのような時代だったか

- ・なぜおこった(何のために行われた)か
- ・どのような影響を及ぼしたか

- ・なぜそのような判断をしたと考えられるか
- ・歴史を振り返り, よりよい未来の創造のために, どのようなことが必要とされるのか

考察, 構想した結果, 獲得する知識の例

- ・9世紀の初め, 唐に渡った最澄と空海は, 帰国後に仏教の新しい宗派を伝えた
- ・15世紀後期の動乱を経て室町幕府の統一的支配は弱まり, 各地の大名による領国の支配や, 民衆による自治的な結合が進んでいった
- ・近世は, 江戸幕府の安定した全国支配体制が形成され, 産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった
- ・自由民権運動は, 士族や商工業者, 有力農民など幅広い人々が参加し, 一部の勢力が多数を占めた政府に対し, 国民の参政権確立を求めた運動であった
- ・アジアの富への関心やイスラム諸国との接触(対立と文化交流)を背景としたヨーロッパ人の海外進出は, 勢力拡大を図る戦国大名との関係のもと, 戦国時代の推移に影響を与えた

・歴史上積み重ねられてきた課題解決の経緯と同様に, 現代社会に生きる私たちも, 課題を見出し, 解決に向き合うことが必要である

(具体例: 公害問題への対策は, 関心の広まりと意識の変化の積み重ねが政治や経済の仕組みに影響を与えたため進展した。現代に生きる私たちもそれらを引き継ぎ, 環境問題について, よりよい未来のために課題を見出して, 解決に向けて考える事が求められている)

公民的な見方・考え方

考えられる追究の視点例

公民的分野

- 現代社会を捉える視点
対立と合意, 効率と公正,
個人の尊重, 自由, 平等, 選択, 配分,
法的安定性, 多様性 など
- 社会に見られる課題の解決を構想する視点
対立と合意, 効率と公正,
民主主義, 自由・権利と責任・義務,
財源の確保と配分, 利便性と安全性,
国際協調, 持続可能性 など

社会，地理歴史，公民における思考力，判断力

◎現代社会の見方や考え方

- ・現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し
- ・それらの課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて

追究の方法

考察

社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力

構想

複数の立場や意見を踏まえて構想する力

追究の視点を生かした, 考察や構想に向かう「問い」の例

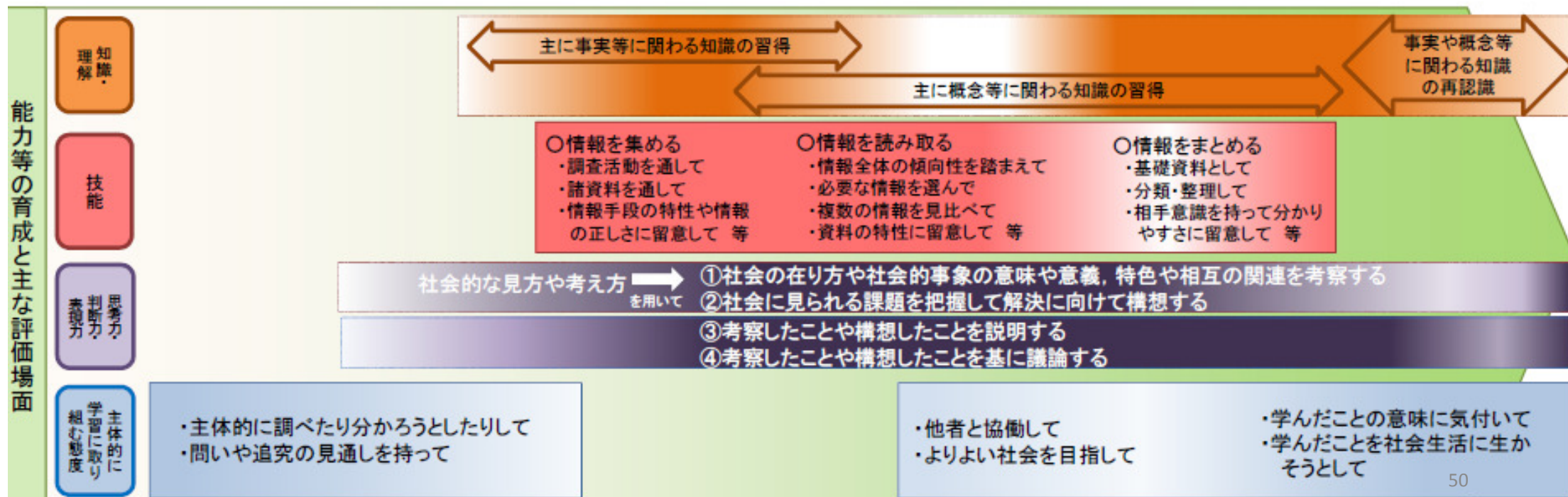
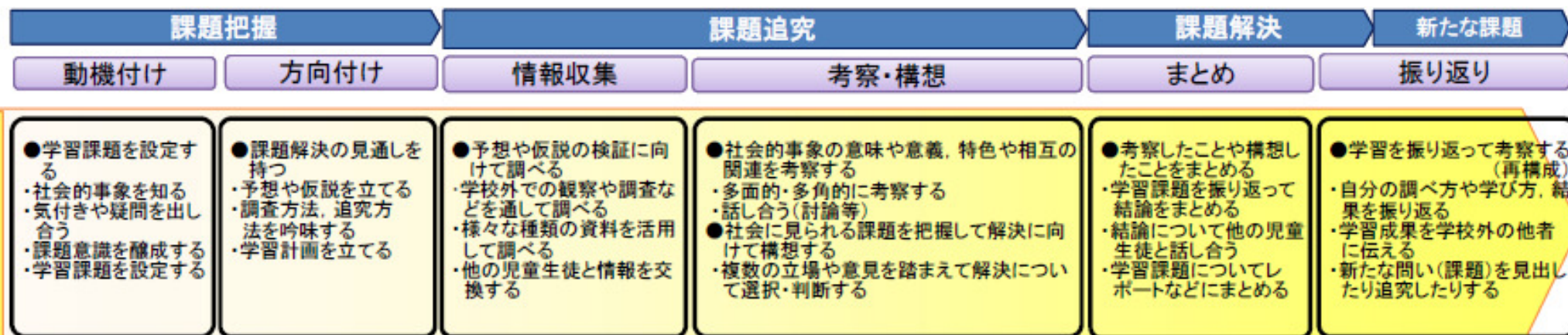
- ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか, どのような機能があるのか
- ・民主的な社会生活を営むために, なぜ法に基づく政治が大切なのか

- ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか
- ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか
- ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか

考察, 構想した結果, 獲得する知識の例

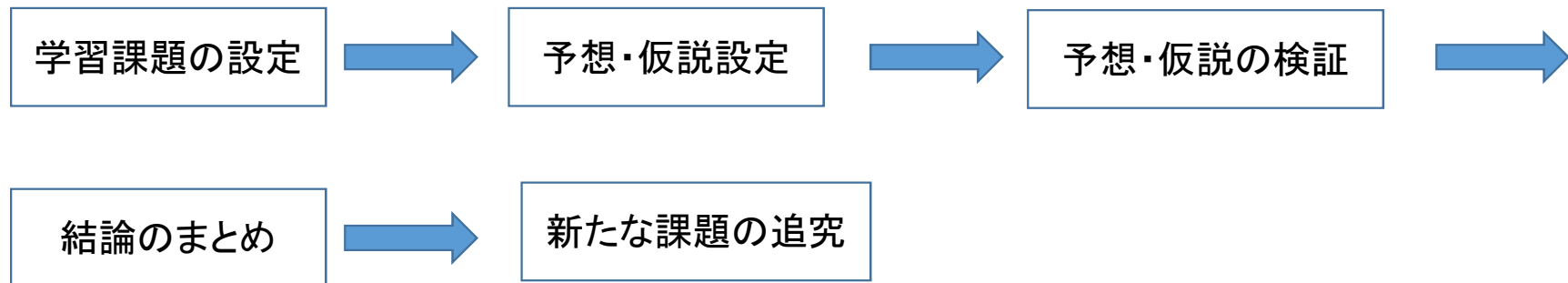
- ・市場経済において個々人や人々は価格を考慮しつつ, 何をどれだけ生産・消費するか選択すること, また, 価格には, 何をどれだけ生産・消費するかに関わって, 人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが, 市場経済の基本的な考え方である
 - ・民主的な社会における法は, 国民生活の安定と福祉の向上を目指し, 国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり, 国や地方公共団体は, 国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている
-
- ・合意の妥当性を判断する際に, 無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である
 - ・財政に関して, 少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ, 財源の確保と望ましい配分について対立と合意, 効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である
 - ・地球環境, 資源・エネルギー, 貧困などの課題に対しては, 経済的, 技術的な協力などが大切である

資質・能力を育む学習過程の在り方



資質・能力を育む学習過程の在り方

- 課題解決的な学習過程



◇知識・概念・技能を習得し、それらを活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する学習過程の授業づくりを行う。

◇そのためには、知識の構造化が必要である。

(3) どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について

【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「**深い学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

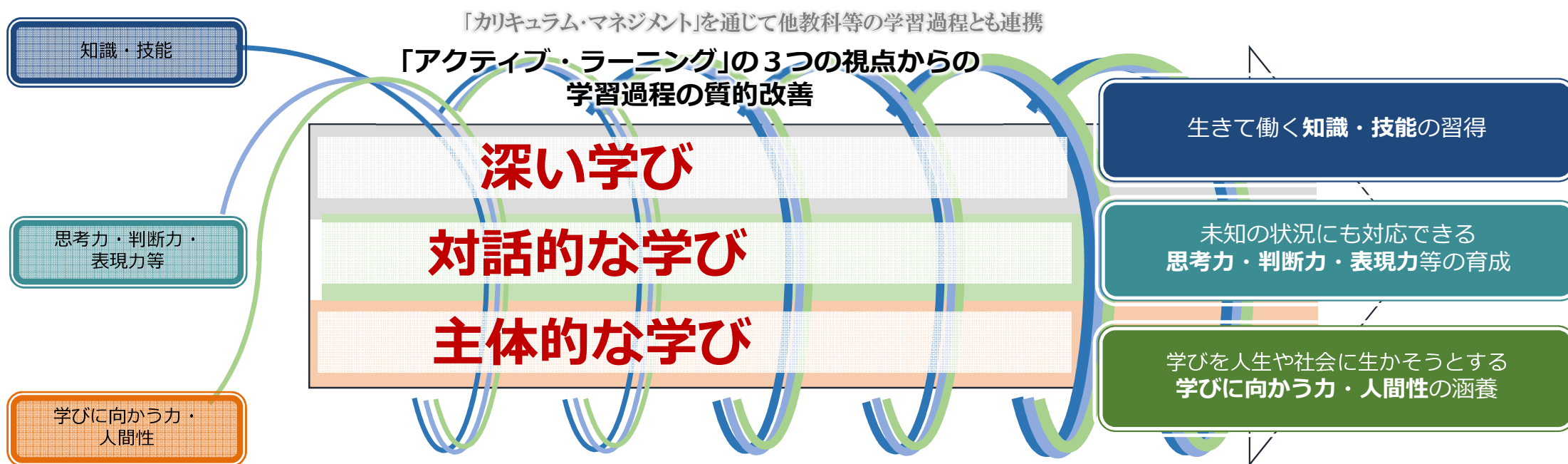
子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

資質・能力の育成と 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）（案）

- ◆「アクティブ・ラーニング」の視点は、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質・能力を身につけるために必要な学習過程を実現するためのもの。こうした三つの視点※を明確にすることにより、授業やカリキュラムの改善に向けた取組を活性化するもの。 ※三つの視点は、学習過程の中で相互に関連し合うものであることに留意
- ◆学習内容の量を削減するのではなく、学習過程の質的改善を行うもの。また、生きて働く知識・技能の習得を含む資質・能力の獲得には、学習内容の深い理解が不可欠であり、「主体的な学び」「対話的な学び」のみならず「深い学び」の重要性にも留意。



※「習得・活用・探究の見通し」とは、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の過程のみではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得される過程や、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりする過程なども含む。

※基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においては、教科等の特質に応じ、知識・技能の習得を中心とした学習を、「深い学び」の前提として習得状況に応じ行う必要がある。その際には、例えば「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなども併せて重要である。

4. まとめ

(1) 評価について

観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の 4 観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

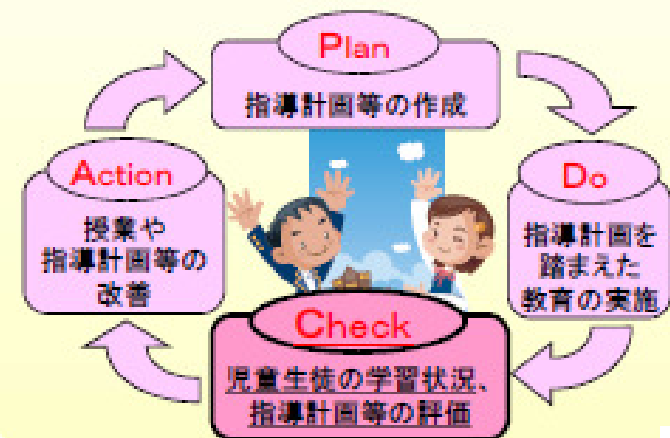
思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



(2) 各学校にお願いしたいこと

◇現行の学習指導要領の趣旨を改めて確認し、その実現を図る。

・課題を探究する力を育成



課題解決的な授業

・社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視



・事象の特色や事象間の関連を説明すること、



自分の考えを論述することを一層重視

社会的な見方・考え方を働かせ、
思考・判断・表現することで、深い
理解や新しい学びへ向かう授業

◇見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の充実を図る。

◇家庭での学習を含め、適切な学習習慣を身に付ける指導の充実を図る。